



野生動物の 生息環境を 守る



A. アスワル



野生動物との遭遇を避ける

野生動物は、人間の活動に対して極度に敏感です。野生動物との遭遇を避けることは、野生動物と人間の双方を守ることにつながります。野生動物との遭遇に対処するための最良の方法は、とにかく野生動物に出会わないようにすることです。

- 音を立てる。野生動物に人間が近くにいることを知らせましょう。特に、風の強い日や、小川、藪の中、ベリーの畑の近く、視界が悪いエリアでは、声を出す、手を叩く、歌う、大声で話すといった行動が有効です。クマよけの鈴は効果がありません。
- 最近まで野生動物がいた形跡を見逃さない。足跡や排泄物、穴を掘った跡や木の幹を引き剥がした跡、ひっくり返された岩が見られるエリアには、野生動物がいたと考えられます。痕跡が新しいものだったら、そのエリアから立ち去りましょう。
- 大人数で行動するほど、野生動物に遭遇する可能性は低くなります。ハイキングに出かける時は、4名以上のグループでまとまって行動しましょう。子供は決して1人で歩かせないでください。

野生動物に遭遇したら

クマ

クマを見かけたら、立ち止まって、冷静さを失わないように努め、クマよけスプレーを使う準備をしましょう。走って逃げ出しはいけません。

クマが人間の存在に気づいていない場合は、クマの気を引くことがないように、その場から静かに離れましょう。

または

クマが人間の存在に気づいている場合は、クマは、突進してきて最後の最後に背を向けることがあります。これは虚勢を張って逃げ出すための行動です。また、唸ったり、顎を鳴らしたり、耳を後方に伏せたりして、防衛的な反応を示すこともあります。

- **落ち着きましょう。** 落ち着いた行動をとれば、クマを不安にさせずにすみませす。叫んだり、突然動いたりすると、クマの攻撃を誘発してしまうことがあります。
- **クマに話しかけましょう。** 落ち着きのある毅然とした声で語りかけます。こうすることで、あなたは人間であり、餌となる動物ではないということを知ることが出来ます。クマが後ろ脚で立ち、空気のおいをかいでいたら、それはクマがあなたが何者なのかを識別しようとしている証拠です。
- **ゆっくりと後ずさりしましょう。** クマが追いかけてくることがあるので、決して走らないでください。
- **自分を大きく見せましょう。** 小さな子供が一緒なら呼び寄せて、グループでかたまるようにします。
- **バックパックを落とさないようにしましょう。** 防衛に役立つ可能性があります。

先に進まなくてはならないときは、クマがいるエリアを大幅に迂回するか、安全な距離を保ち、クマが立ち去るのを待ちましょう。

国立公園は、カナダならではの景観の維持と、野生動物にとって重要な生態系の保護に取り組んでいます。人間がとる行動により、動物の野生味が減少すると、国立公園ならではの魅力が薄れてしまいます。ドライブ、トレイルのハイキングやサイクリング、町での休暇を計画している方は、自然の中での行動に関する重要な注意事項をあらかじめ理解しておいてください。ひとりひとりの責任ある行動が野生動物の命を守り、人間の安全を確保することにつながります。

山岳地帯の国立公園を訪れる際、野生動物との出会いを楽しみにしている方も多いことでしょう。野生動物には節度を持って接することが重要です。あまり近づきすぎると、野生動物を生存の危機に立たせてしまうこととなります。野生動物が人間の環境に馴染んでしまうと、動物を野生動物たらしめる「野生」という特性が失われる危険性が高くなるからです。



S. ジニキヤック

安全に観察するために

エルク、シカ、ムース、ビッグホーンシープを観察するなら、最低でも**バス3台分**(30m)は離れた場所から観察してください。クマ、クーガー、オオカミの場合は**バス10台分**(100m)離れてください。



D. フラフ



エルク



- エルクは危険な動物です。
- エルクのメスは、5月から6月の出産シーズンになると攻撃的になります。
- エルクのオスは、9月から10月の繁殖期になると攻撃的になります。
- エルクが人間の存在に気づき、何らかの反応を示している場合、それは近づきすぎていることを意味します。
- エルクとの間に十分な距離をとりましょう。
- エルクやその子供に近づかないでください。
- エルクは、驚くと道路やフェンスに突進して、エルク自身や人間を危険な目に遭わせることがあります。

シカ、ビッグホーンシープ、マウンテンゴート

シカ、ビッグホーンシープ、マウンテンゴートはおとなしい動物に見えますが、驚きやすく、突然攻撃的になることがあります。ひづめ、枝角や角で人間を襲うことがあります。

- 動物のほうから近づいてきたら、その場から離れ、安全な距離を保ってください。
- 野生動物に餌を与えないでください。
- 野生動物は時として、特に理由もなく突然攻撃してくることがあるため、犬の散歩をするときはリードを短く持ち、野生動物との間に十分な距離を確保してください。



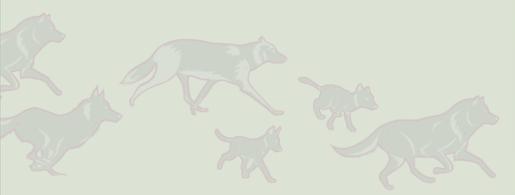
A. アスワル

遭遇に備える

トレイルではクマよけスプレーを常に携帯し、取り出せるようにしておきましょう。使い方を覚えておくことも大切です。



クマよけスプレーには、グリズリーやブラックベアの攻撃を抑止する効果があることが証明されています。クーガーやエルクなどの野生動物と遭遇したときにも、攻撃を抑止する手段として役に立ちます。



A. アスワル

山の中での交通渋滞

国立公園を訪れた人が図らずも、道端の野生動物を死に追いやってしまうことがあります。人間が近づきすぎると、動物は攻撃的な反応をします。公衆の安全が脅かされた場合は、野生動物を殺すことがあります。

道端の野生動物を見物する人々が原因による交通渋滞に巻き込まれたら：

- スピードを落としましょう。ゆっくり走っていれば、慌てて行動をとる必要性が少なくなります。

- 自分の前後の道路の状況をよく見ておきましょう。

- ハザードランプを点灯させて、他のドライバーに注意を促しましょう。

- 道路周辺に注意を払いましょう。野生動物や人間、特に子供が突然道路に飛び出してくることがあります。

- そのほうが安全だと判断した場合は、車を路肩に寄せましょう。道路の中央、丘の近く、曲がり角、交通渋滞が激しいところでは止まらないでください。舗装道路から外れないでください。

- 車の中にいれば、野生動物と車の両方から身を守ることができません。しばらくしてから移動しましょう。

- 制限速度を守ってください。

- 日の出、日没の時間帯は特に注意を払ってください。1日のうちで、動物が最も活動的になる時間帯です。

- 止まらないでください。同乗者は動物を見ることができるかもしれませんが、ドライバーは運転に集中する必要があります。トランス・カナダ・ハイウェイの走行中は、緊急事態が発生したとき以外は止まらないでください。



T. ドナルド

餌やりと接近

動物に餌をやったり、近づいたりすると、野生動物に元来備わっている人間への恐怖心が失われてしまいます。人慣れしたり、餌でつられるようになったりした動物は、いっそう攻撃的になる傾向があります。餌をやった結果、次のようなことも起こりえます。

- 動物を道端に誘い出すと、車に轢かれて怪我をしたり、死亡したりすることがあります。

- 生ゴミを食べるようになります。動物は食べ物の匂いがするものなら何でも食べます。

- 小動物でさえも、非常に攻撃的になったり、噛み付いたりするようになります。

- 人間の健康に影響を及ぼします。野生動物と直接接触することが原因で、怪我や病気など、人間の健康を脅かすことになるかもしれません。

国立公園内で野生動物に餌をやる、野生動物をおびき出す、野生動物の妨害をすることは違法行為です。



D. ワイナー

観察に際して

野生動物の観察と写真撮影における注意点

- 野生動物の写真は、車の中または展望エリアから撮影してください。動物をとり囲んだり、動物に群がったり、動物の後をつけたりしないでください。焦点距離 300 ~ 400mm 以上の望遠レンズを持っていない場合は、自然の中にいる動物の遠景を撮影するか、後から画像のトリミングや拡大をしてください。

- 音を立てて驚かせたり、良い写真を撮るために動物を移動させたりしないでください。

- 動物の移動経路または逃げ道をふさがしないでください。動物が近づいてきたら、その場を離れてください。

- 攻撃の兆しや、行動に何らかの変化が見られたら、すぐに退避してください。

- 動物の目を直視しないでください。動物は目を見られると恐怖を感じます。

- 巣作りをしている鳥や動物、ねぐらにいる動物、生まれたばかりや子供の動物はそっとしておいてください。

- 餌をやる、手を伸ばす、音(エルクの鳴き声など)を真似するなどの行為で野生動物をおびき出すことは違法です。



A. アズワイル



A. アズワイル

子供

人間の子供は、野生動物の獲物と同じくらいの大きさである可能性があります。子供の身の安全を守るために、次の点に注意してください。

- 子供を常に大人の目と手が届く範囲に置きましょう。

- 植物がうっそうと茂るエリアやその周辺で子供を遊ばせないようにしましょう。

- 野生動物をなでる、動物に餌をやる、動物と一緒に写真をとるなどの行為を子供にさせないでください。

ペット

野生動物、あなた自身、そしてあなたのペットの安全を確保するために、常にペットをコントロールできる状態に置き、リードをつけておきましょう。周囲に気を配り、状況を把握しておきましょう。野生動物は、犬が近くにいると攻撃的になることがあります。野生動物がいないかどうか目を光らせ、野生動物から遠く離れた場所にいるようにしてください。

国立公園でペットのリードを付けていないことは違法行為です。

野生動物との共生

町の中、キャンプ場、ピクニックエリア内などを、動物はいつでも移動する可能性があります。

- 食糧、食品関係のもの、ペットフードは、閉め切った車両の中、食品ロッカー、クマには開けられない特別な容器に保管してください。クーラーボックス、箱、缶、テントや軟らかい材質の部分があるキャンピングカーは、野生動物がいる場所での利用には向いていません。

- 野生動物は、化粧品やトイレタリー用品、洗面台、調理用ストーブ、空になったペットフード用ボウルなど、さまざまな匂いに惹きつけられます。匂いを発するものは、食べ物と同じように保管してください。

- 排水は適切な施設で処理してください。

- すべての生ゴミは野生動物対応のゴミ箱に入れてください。

- ペットには常にリードをつけてください。野生動物にとってペットは獲物と認識されるため、危険を誘発する可能性があります。

- 木や地面から枝を取り払わないでください。鳥類や小動物の生息場所や隠れる場所を破壊することになります。

連絡先

オオカミ、クマ、クーガーの目撃情報や、野生動物に関する事故はパークス・カナダに通報してください。

バンフ、クートニー、ヨーホー：
パークディスパッチ 403-762-1470
ジャスパー、マウント・レベルストーク、グレーシャー：
パークディスパッチ 780-852-6155
ウォータートン・レイク：
パークオフィス 403-859-2224

公園の規定に違反する行為を見聞きしたら、次の連絡先に通報してください。

24 時間年中無休
1-888-927-3367
(バンフ、ヨーホー、クートニー、ウォータートン・レイク)
1-877-852-3100
(ジャスパー、マウント・レベルストーク、グレーシャー)

一般情報
pc.gc.ca にアクセスするか、パークス・カナダ・ビジター・センターまでご連絡ください

野生動物の身体的な特徴



M. プラットリ

体は茶色、首まわりの毛は濃色。尻に褐色の大きな斑点。斜め後方を向いた枝角。



H. クラス・カナダ

長い脚、肩のこぶ。馬のような体型、大きな頭。シャベル状の枝角。



M. プラットリ

褐色、尾の下側は白、警戒すると旗のように直立する。



H. クラス・カナダ

尾尻の先端は黒、大きな耳、白い尻、身体はグレー。



M. プラットリ

体は濃色、首の毛は明るい色。C字型の枝角、根元にシャベルのような形の枝角。



M. プラットリ

尻は白、毛と角は明るい茶色。オス：太くて曲がった角。メス：短く細い角。



D. ワイナー

細く黒い角、あごひげ、白く長い毛。



D. ワイナー

灰色の短くて丸い耳。岩と同化。



R. クレイ

中型犬サイズ。ふさふさの尾。色は灰色がかった茶色。



J. シェパード

大型のジャーマンシェパードに似ている。長い脚。色は白から黒までさまざま。



H. クラス・カナダ

肩に独特のこぶ、大きな頭、短くて丸い耳、長い爪。



H. クラス・カナダ

肩にこぶはない、小さな頭、長い耳、短い爪。シナモン色の個体もあり。



M. プラットリ

茶色と黒の被毛、肩周りは白。黒い足。



M. プラットリ

褐色。赤みを帯びた鼻と足。「キーキー」という甲高い鳴き声。



M. プラットリ

体の毛は赤、腹部は白、非常に大きくふさふさした尾。



H. クラス・カナダ

顔に2本の白い縞模様。背中に4本の灰色の線。